

鉄道構造物の維持管理学ぶ

福井県コンクリート診断士会セミナー

JR西 技術理事 松田好史氏の講演に約120人

契約は施工・管理一体が理想

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）が主催する毎年恒例のコンクリート診断技術セミナーが9日、福井市手寄



松田 好史氏

が主催する毎年恒例のコンクリート診断技術セミナーが9日、福井市手寄



約120人が聴講したセミナー

福井県建設技術公社は、会員以外も聴講できるオープン形式で、コンクリート構造物の維持管理をともに考えようという企画。会費

のアオッサで開かれた。今回はJR西日本常務技術理事の松田好史氏が鉄道コンクリート構造物の維持管理をテーマに講演。参加者はJRの鉄道構造物の維持管理に対する考え方や技術を熱心に学んだ。

同セミナー（共催）

足2年目から開催しており、今回で10回目。毎回、全国的にも有名な講師を招いている。松田氏は鉄道コンクリート構造物維持管理の第一人者で、「鉄道コンクリート構造物の強靱化の取り組みと課題」と題して講演。会場は会員や他県のメンバーほか、一般も合わせ約120人の参加者で埋まった。

冒頭、石川会長は「鉄道構造物の維持管理は道路構造物と異なり、迂回ルートの設定や運休による作業が困難なため、常に補修・補強による機能回復・強化を図らなければならない。（JRは）国

鉄時代からきめ細かい維持管理の技術を構築し、また橋守制度を代表とした維持管理に関する長い歴史を持つ。何かと制約条件が多い鉄道構造物の維持管理の技術や考え方は、道路構造物など鉄道構造物以外の維持管理に関わる技術者にとって、学ぶべき点が多岐に多く、大いに参考に「と今セミナーの意義を訴えた。

講演では松田氏が、まずJR西日本の鉄道構造物について60%以上が90年超経年、約85%が土構造物と説明。しかし、古い構造物ほど健全性が低下しているとは限らないとした。構造物に求められる性能は安全性、使用性、第三者影響度、景観・美観、耐久性の5性能とし、このうち最も重要なのは第三者影響度で、天井板が剥落して多数の死傷者が出た中央道笹子トンネル事故やこれまで起きた新幹線トンネル事故を例に、日々の維持管理の重要性を強調した。

維持管理における課題に関しては検査精度の向上、劣化等の予測技術性能や効果の確認、技術開発、維持管理シナリオの策定、契約、検査記録等の活用、人材育成を挙げ、特に契約では施工・維持管理一体が理想とした。

このほか、地震や津波対策も紹介。東日本大震災では、それまでに対策した構造物ほとんど被害が出ず、耐震補強効果等が実証できたと説明。今後の課題には災害に関わるノウハウの継承などを挙げ、構造物の安全や長寿命化を支える技術者に期待した。